

問6 今後、県に最も力を入れてほしい生活関連施策の分野 (2つまで選択)

(全体集計)

- 今後、県の生活関連施策で最も力を入れてほしい分野としては、以下に示すように、「医療や保健」「高齢者・障害者福祉」の2分野を挙げる回答者が多かった。

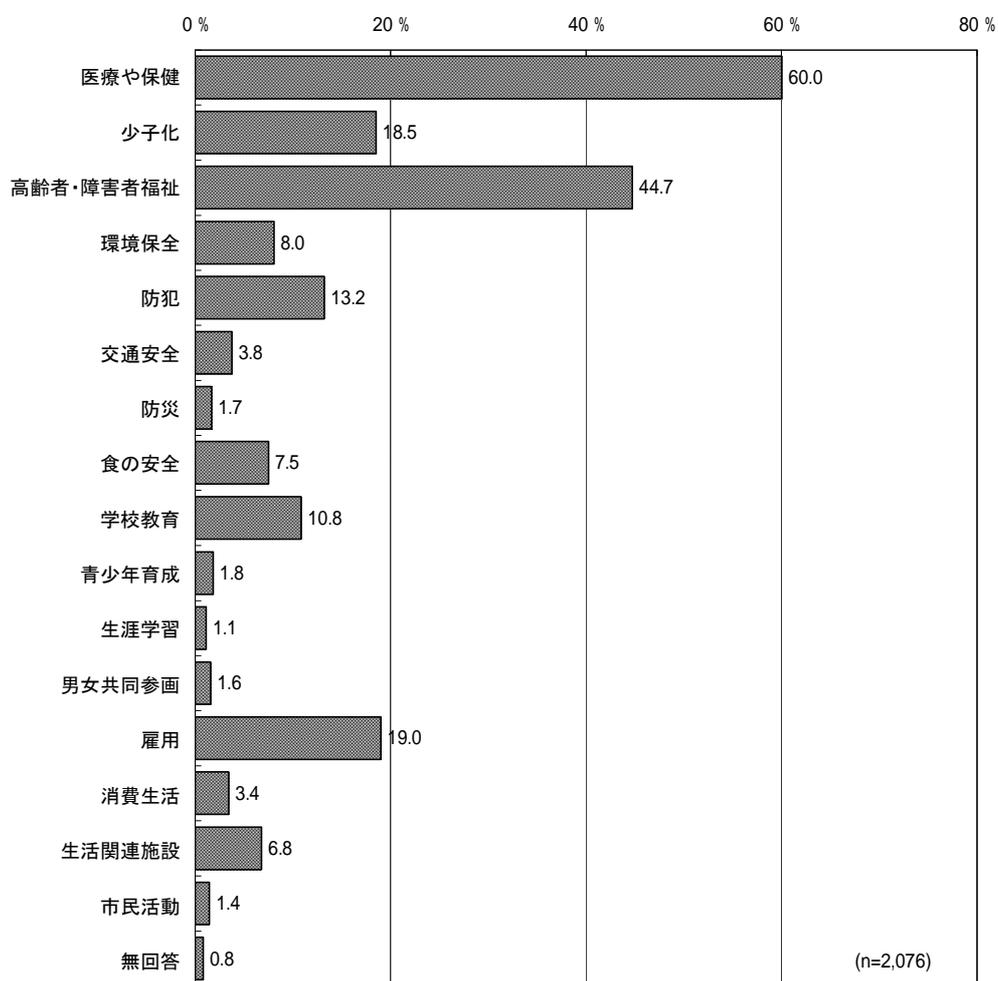
①「医療や保健」	: 60.0%
②「高齢者・障害者福祉」	: 44.7%
③「雇用」	: 19.0%
④「少子化」	: 18.5%
⑤「防犯」	: 13.2%
⑥「学校教育」	: 10.8%

〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においても、挙げた回答者が多い分野の順番は一般調査と4番目までは同じであった。
- ・特定分野への集中度合は一般調査に比べて低く、最も多く挙げられた「医療や保健」についてもその割合は47.5%と半数以下であり、全体として分野が広範に選択されている。

①「医療や保健」	: 47.5%
②「高齢者・障害者福祉」	: 27.8%
③「雇用」	: 22.2%
④「少子化」	: 19.8%
⑤「学校教育」	: 17.9%
⑥「環境保全」	: 12.3%
⑦「食の安全」	: 11.1%
⑧「防犯」	: 8.0%

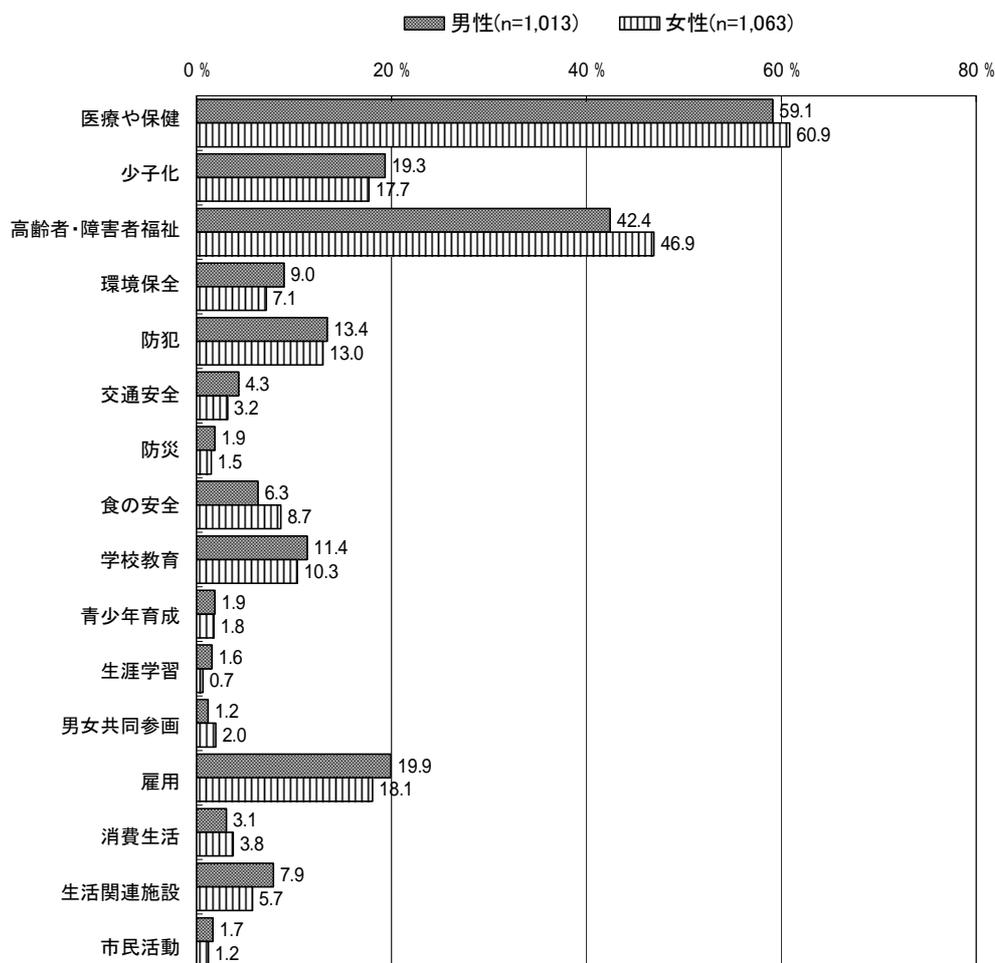
今後、県に最も力を入れてほしい生活関連施策の分野



(性別)

●男女いずれにおいても「医療や保健」が最も多く、次いで「高齢者・障害者福祉」が挙げられており、他の分野についても性別による大きな違いはない。

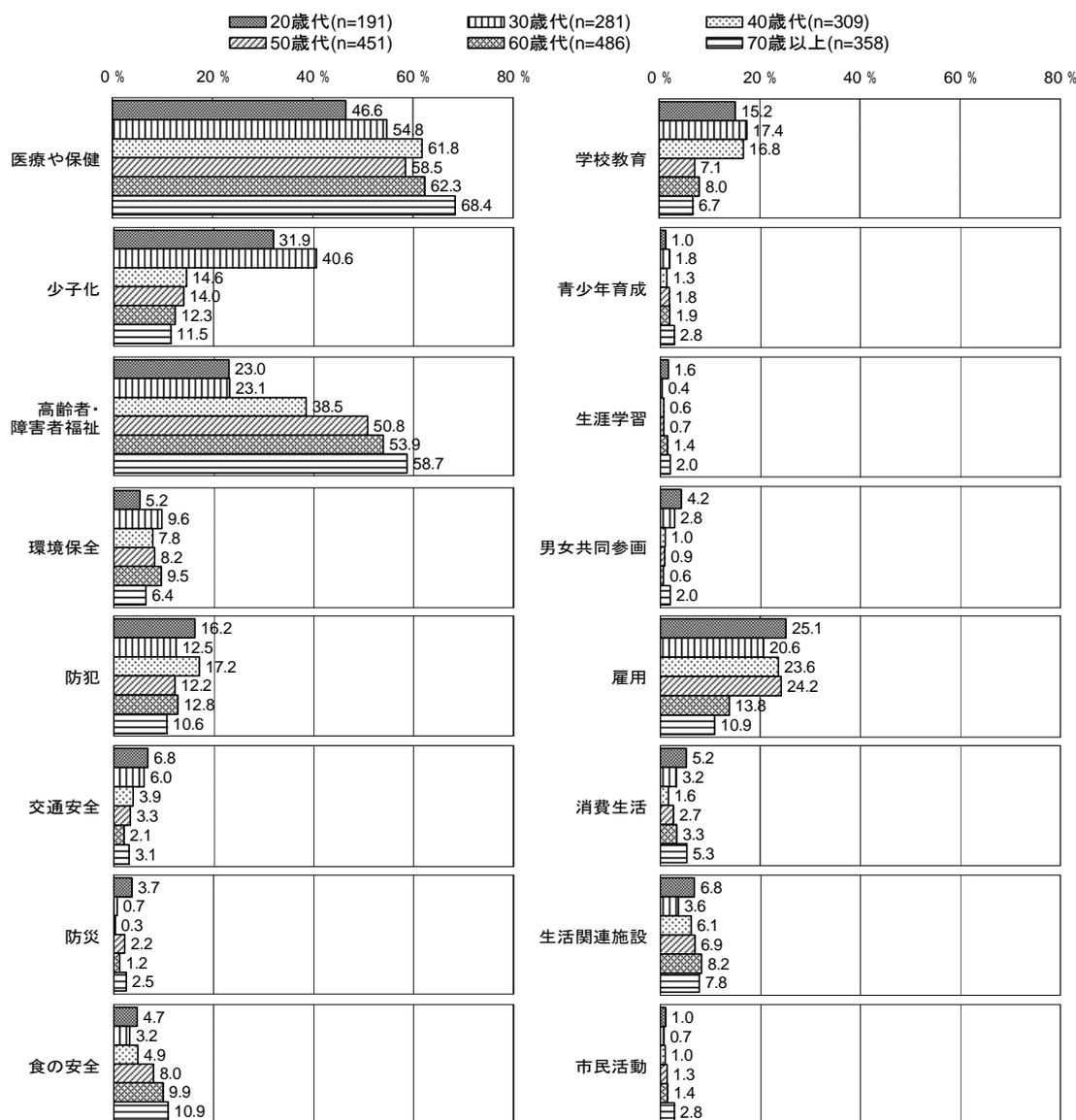
今後、県に最も力を入れてほしい生活関連施策の分野（性別）



(年代別)

- 全ての年代において「医療や保健」が最も多く挙げられている。その割合は20歳代では半数以下であるが、年代が上がるにつれて多くなる傾向があり、70歳以上では7割に近くなる。
- 次いで多く挙げられた項目は、20・30歳代では「少子化」であった。40歳代以上では「高齢者・障害者福祉」となるが、その割合は年代が上がるにつれて確実に多くなる。
- 年代別の特徴として、20～50歳代では「雇用」「学校教育」が他の年代に比べて多く挙げられており、また、50歳代以上では「食の安全」が他の年代に比べて多く挙げられた。

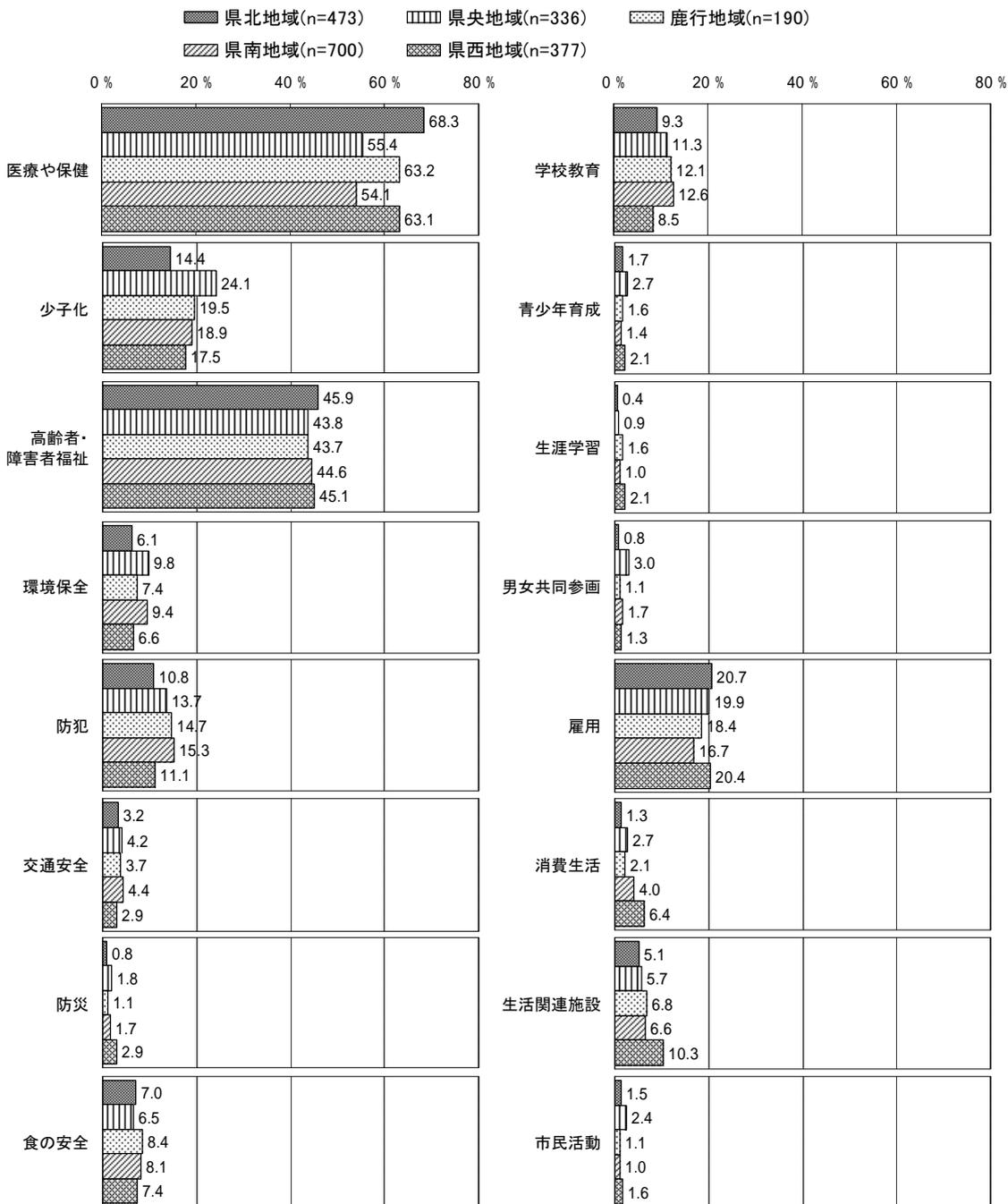
今後、県に最も力を入れてほしい生活関連施策の分野（年代別）



(地域別)

- 全ての地域で「医療や保健」が最も多く、次いで「高齢者・障害者福祉」が多く挙げられた。
- 県央地域では「少子化」を、県西地域では「生活関連施設」を挙げる割合が他の地域に比べて多い。

今後、県に最も力を入れてほしい生活関連施策の分野（地域別）



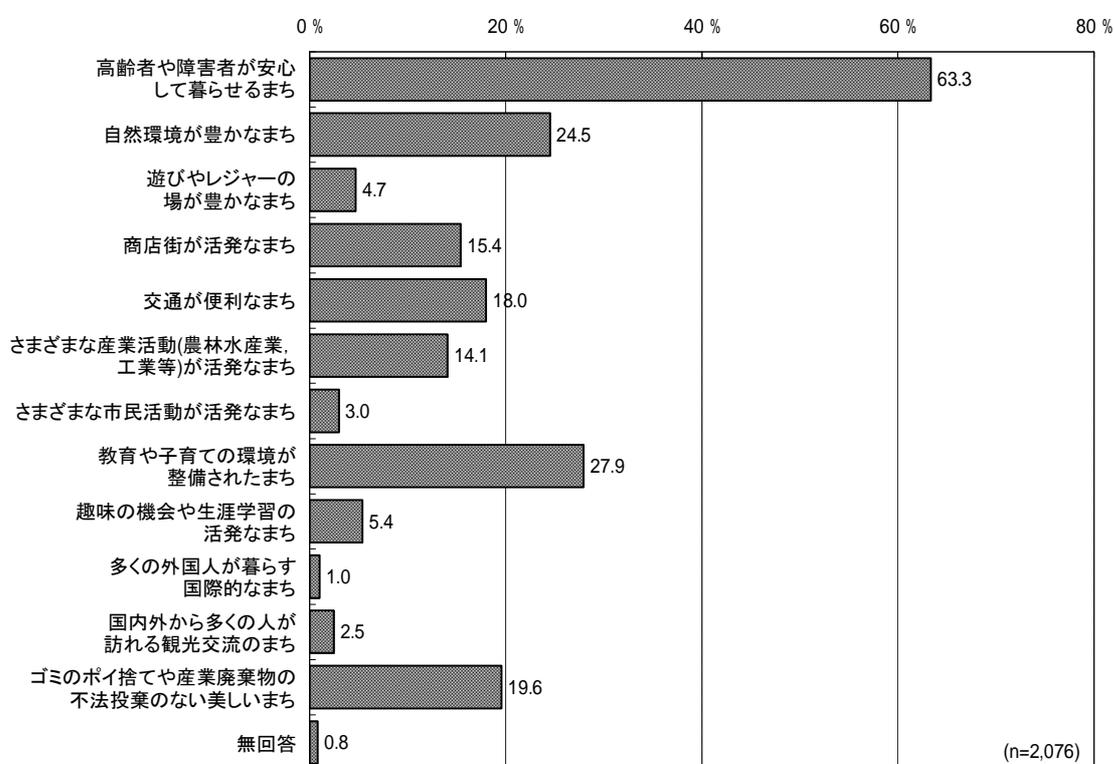
問7 住んでいる地域の将来の姿として期待する“まち” (2つまで選択)

(全体集計)

●現在住んでいる地域の将来の姿として期待する”まち”としては、以下に示すように、「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」を挙げた回答者が多かった。

- ①「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」 : 63.3%
(→以下では「高齢者・障害者が安心」)
- ②「教育や子育ての環境が整備されたまち」 : 27.9%
(→以下では「教育・子育て環境整備」)
- ③「自然環境が豊かなまち」 : 24.5%
(→以下では「豊かな自然環境」)
- ④「ゴミのポイ捨てや産業廃棄物の不法投棄のない美しいまち」 : 19.6%
(→以下では「美しい」)
- ⑤「交通が便利なまち」 : 18.0%
(→以下では「交通便利」)

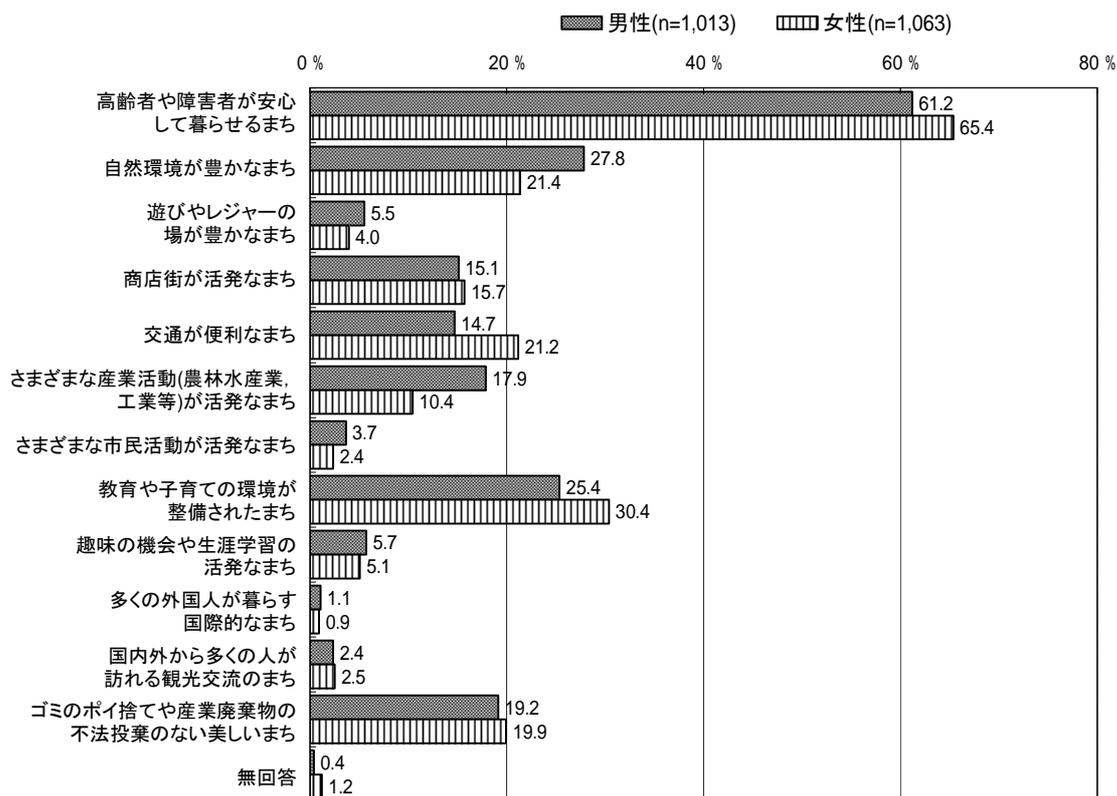
住んでいる地域の将来の姿として期待する“まち”



(性別)

- 男女いずれにおいても「高齢者・障害者が安心」が最も多く挙げられたが、次いで多く挙げられたまちは、男性では「豊かな自然環境」，女性では「教育・子育て環境整備」であった。

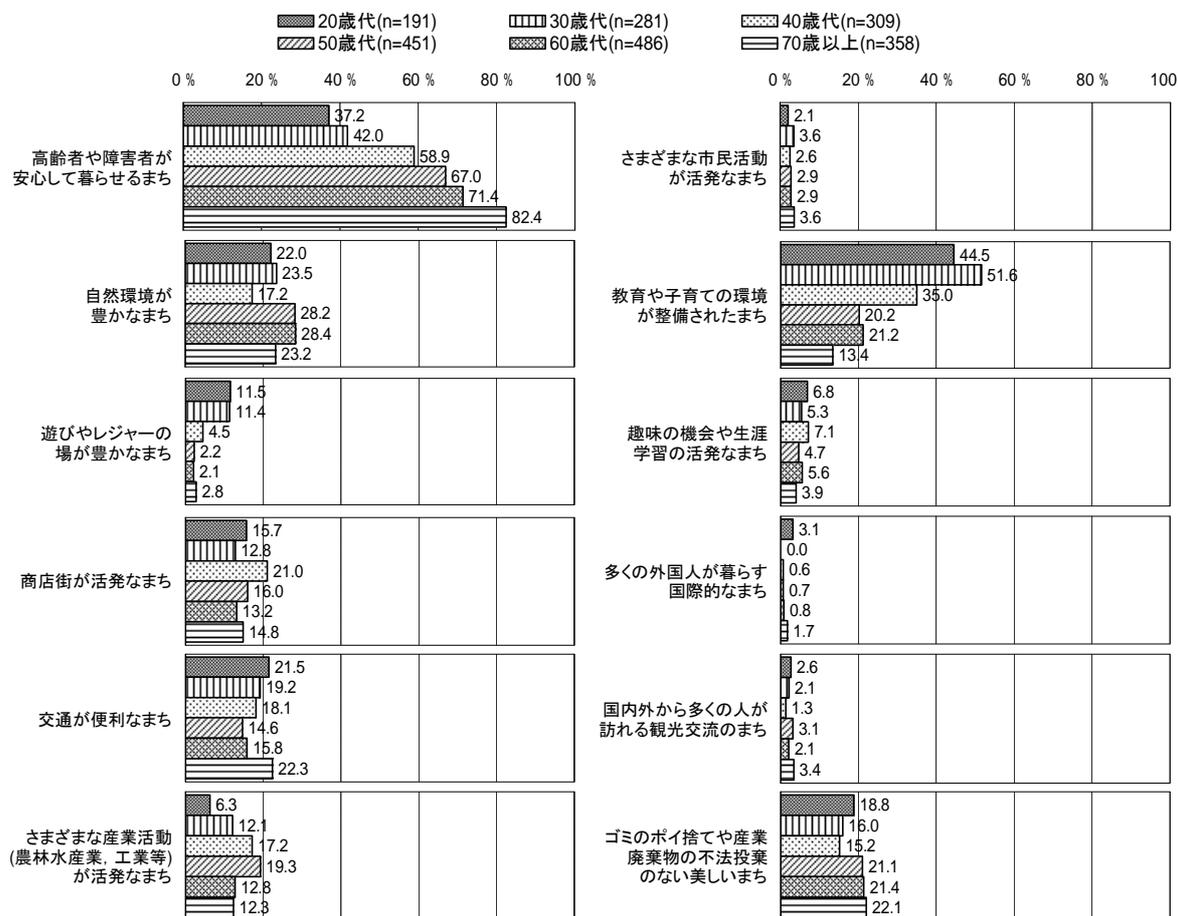
住んでいる地域の将来の姿として期待する“まち”（性別）



(年代別)

●年代による違いが大きく、20・30歳代では「教育・子育て環境整備」が最も多く挙げられたが、40歳代以上では「高齢者・障害者が安心」が最も多く挙げられた。

住んでいる地域の将来の姿として期待する“まち”（年代別）



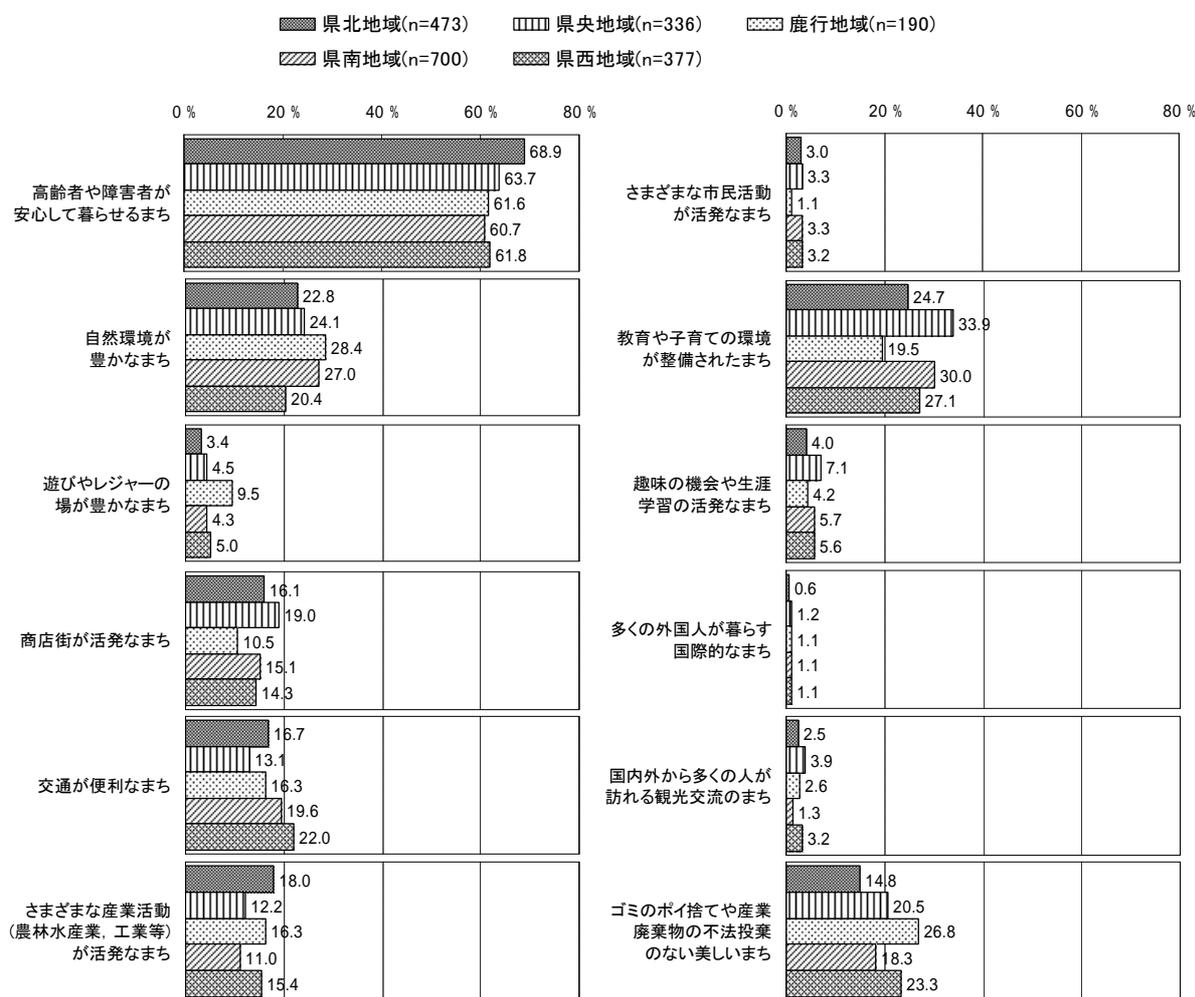
(地域別)

- 全ての地域で「高齢者・障害者が安心」が最も多く挙げられた。
- 次いで多く挙げられたまちは、ほとんどの地域で「教育・子育て環境整備」であったが、鹿行地域では「豊かな自然環境」であった。

(地域代表者等調査との比較)

- ・ 地域代表者等調査においては、鹿行地域を除くすべての地域で「高齢者・障害者が安心」が最も多く挙げられたが、鹿行地域では「教育・子育て環境整備」が最も多く挙げられた。

住んでいる地域の将来の姿として期待する“まち” (地域別)



問8 市民団体と行政が協働して地域の問題解決を図っていく方法について

(1)市民団体と行政が協働して地域の問題解決を図っていく方法についてどう思うか (全体集計)

- 『賛同できる』(注1)が69.9%を占めて最も多く、以下、「どちらともいえない」が17.6%、『賛同できない』(注2)が6.0%であった。『賛同できる』の内訳は「とても賛同できる28.5%：どちらかといえば賛同できる41.4%」、『賛同できない』の内訳は「賛同できない1.9%：あまり賛同できない4.1%」であり、どちらも断定的な意見より中間的な意見の方が多い。

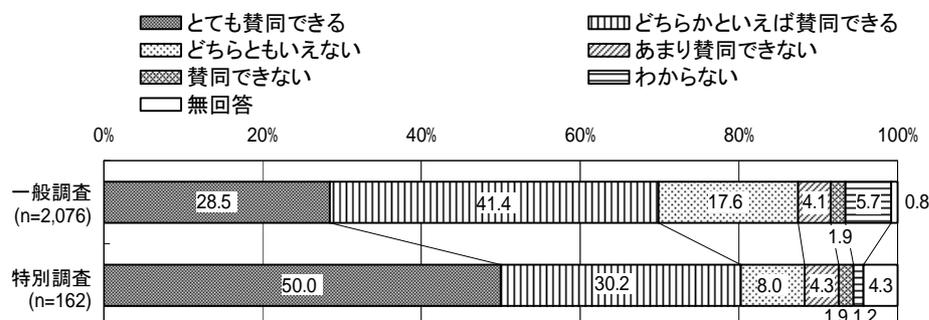
(注1)「とても賛同できる」と「どちらかといえば賛同できる」の合計。以下、同じ。

(注2)「賛同できない」と「あまり賛同できない」の合計。以下、同じ。

〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査では『賛同できる』が80.2%を占めており、一般調査に比べて10ポイント強多い。また、その内訳は「とても賛同できる50.0%：どちらかといえば賛同できる30.2%」で、「とても賛同できる」が全体の半数を占めており、「賛同」の意向は一般調査に比べてかなり強い。

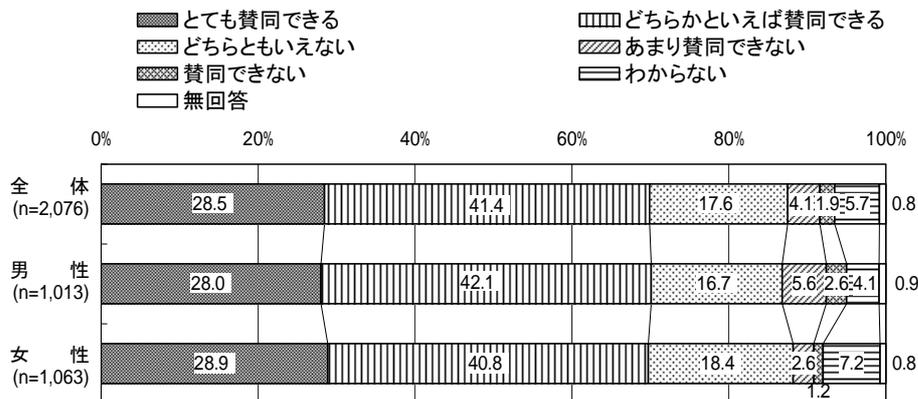
市民団体と行政が協働して地域の問題解決を図っていく方法についてどう思うか



(性別)

●性別にかかわらず『賛同できる』が70%前後を占めたが、『賛同できない』については男性(8.2%)が女性(3.8%)より多い。

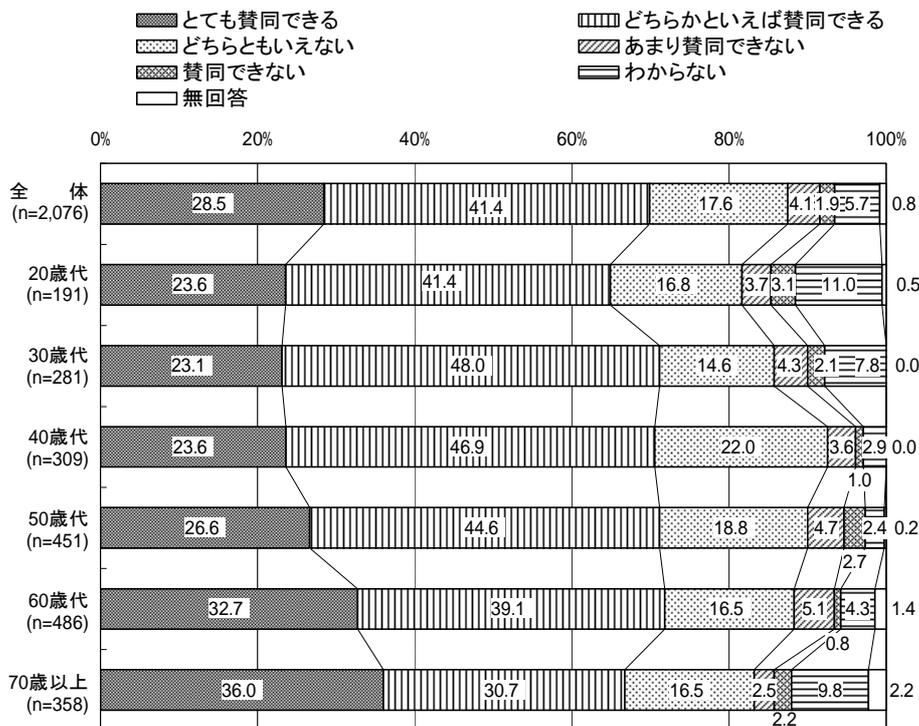
市民団体と行政が協働して地域の問題解決を図っていく方法についてどう思うか(性別)



(年代別)

20歳代及び70歳以上では『賛同できる』の割合は65%前後であるが、30～60歳代ではその割合は70%超でやや多くなる。

市民団体と行政が協働して地域の問題解決を図っていく方法についてどう思うか(年代別)



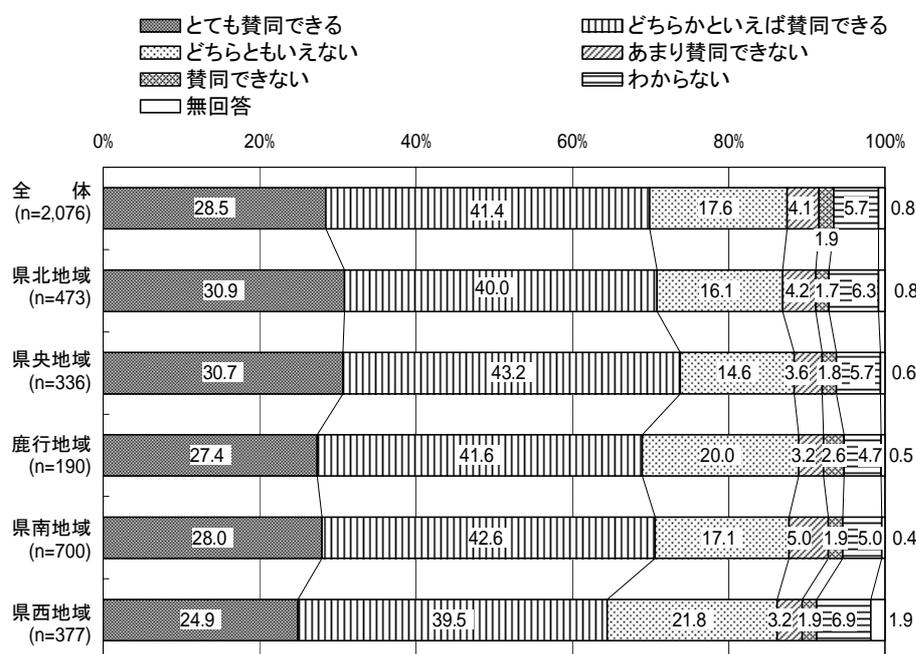
(地域別)

●ほとんどの地域で『賛同できる』が70%前後を占めているが、県西地域ではその割合は64.4%となり、他地域に比べてやや少ない。

〈地域代表者等調査との比較〉

・全ての地域で『賛同できる』が最も多いが、その割合は地域によって異なっており、県央・県西・鹿行地域では9割近くを占めているが、県北地域では8割弱であり、また、県南地域では7割に満たない。

市民団体と行政が協働して地域の問題解決を図っていく方法についてどう思うか (地域別)



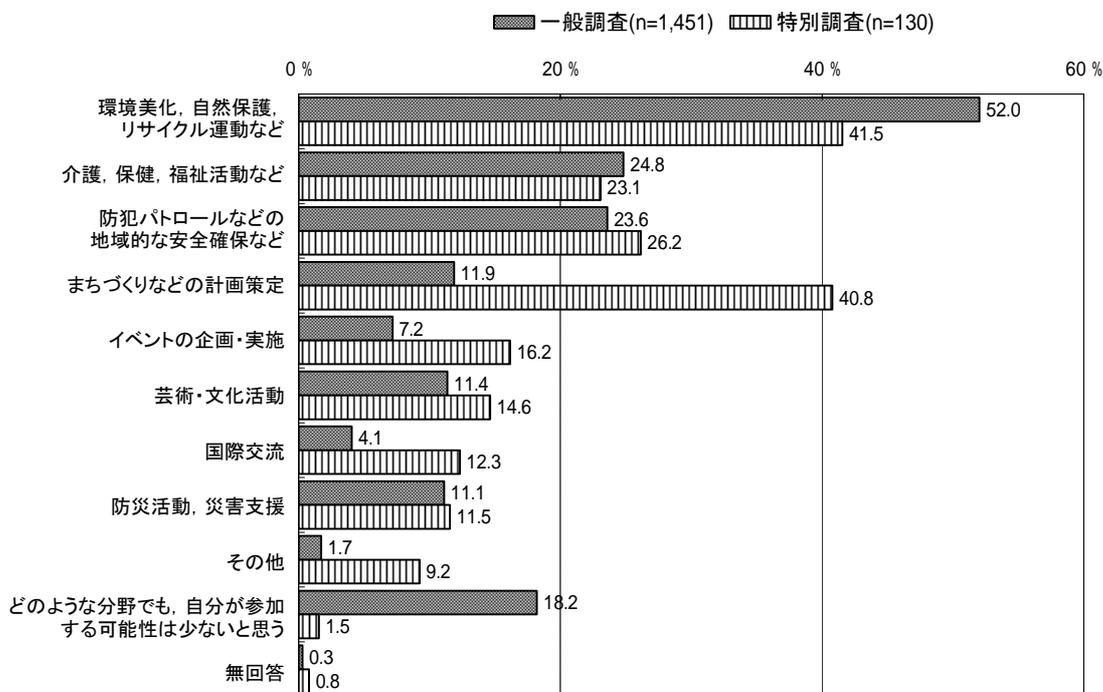
(2) どのような分野の活動であれば参加する可能性があるか (選択は2つまで)
(全体集計)

●前問で「とても賛同できる」もしくは「どちらかといえば賛同できる」を選択した回答者に、どのような分野の活動であれば参加する可能性があるかを聞いたところ、回答者の52.0%が「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」を挙げて最も多い。同分野以外を挙げた回答者はいずれの分野についても25%未満と少なくなるが、「介護, 保健, 福祉活動など」(24.8%), 「防犯パトロールなどの地域的な安全確保など」(23.6%)が続く。一方、「どのような分野でも, 自分が参加する可能性は少ないと思う」が18.2%と2割弱を占めた。

〈地域代表者等調査との比較〉

- ・地域代表者等調査においても、回答者の41.5%が「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」を挙げており最も多いが、それと差が無く40.8%が「まちづくりなどの計画策定」を挙げている。一般調査では同分野(まちづくりなどの計画策定)を挙げた割合は11.9%であり、大きな違いとなった。
- ・これらに次ぐ分野としては、「防犯パトロールなどの地域的な安全確保など」(26.2%), 「介護, 保健, 福祉活動など」(23.1%), 「イベントの企画・実施」(16.2%)などが挙げられている。

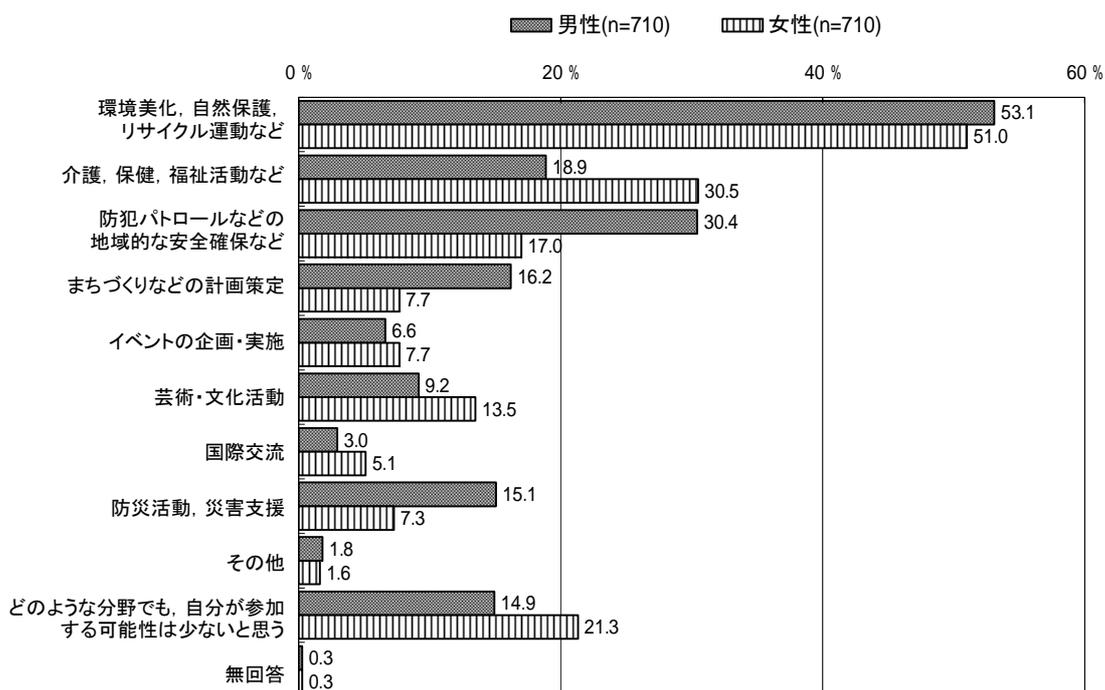
どのような分野の活動であれば参加する可能性があるか



(性別)

●性別にかかわらず「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」を過半数が挙げたが, 同分野に次ぐ分野としては, 男性では「防犯パトロールなどの地域的な安全確保など」(30.4%)が, 女性では「介護, 保健, 福祉活動など」(30.5%)が挙げられた。また, 「どのような分野でも, 自分が参加する可能性は少ないと思う」は, 女性(21.3%)が男性(14.9%)より多い。

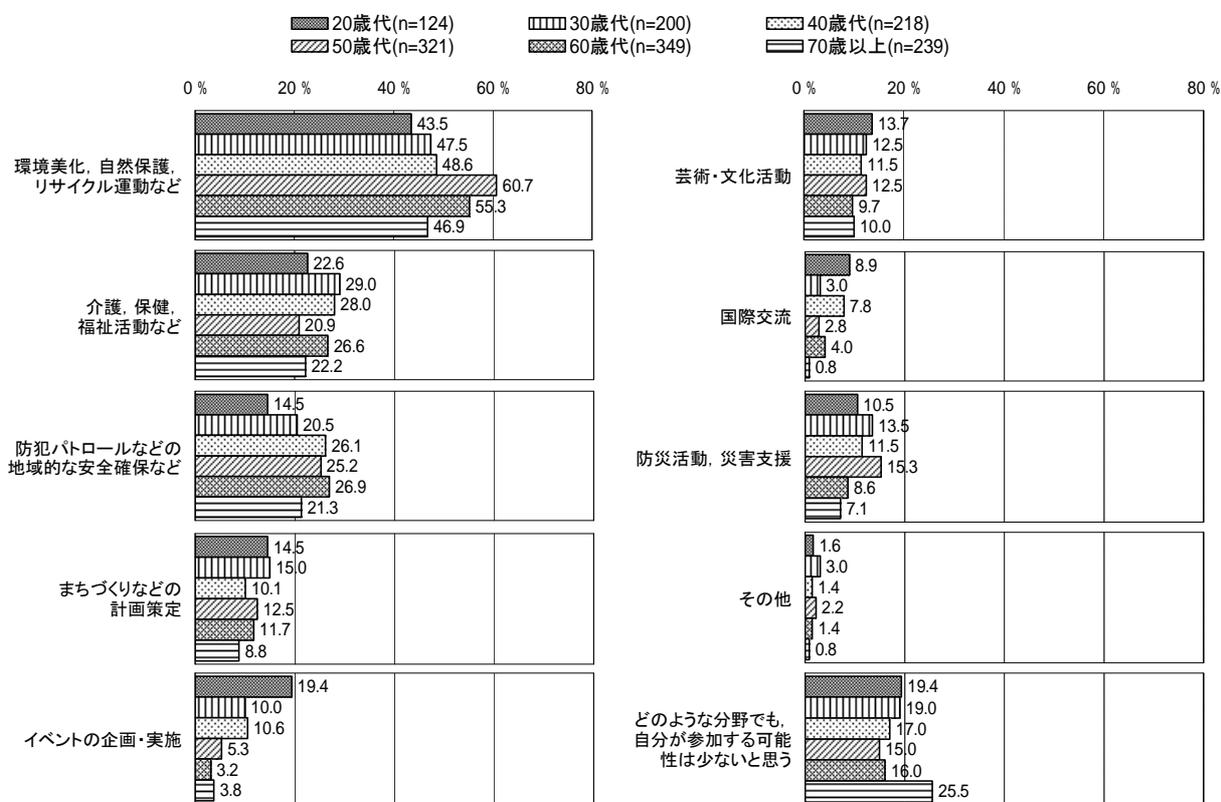
どのような分野の活動であれば参加する可能性があるか(性別)



(年代別)

●年代にかかわらず「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」が最も多く挙げられ, その割合は50歳代で60.7%を占めて最も高い。同分野に次いで, 20・30・40歳代及び70歳以上では「介護, 保健, 福祉活動など」が挙げられたが, 50・60歳代では「防犯パトロールなどの地域的な安全確保など」が挙げられた。また, 「どのような分野でも, 自分が参加する可能性は少ないと思う」は, 70歳以上では25.5%を占めて最も多くなり, また, 20・30歳代でも20%弱を占めており, 他の年代に比べて若干多い。

どのような分野の活動であれば参加する可能性があるか (年代別)



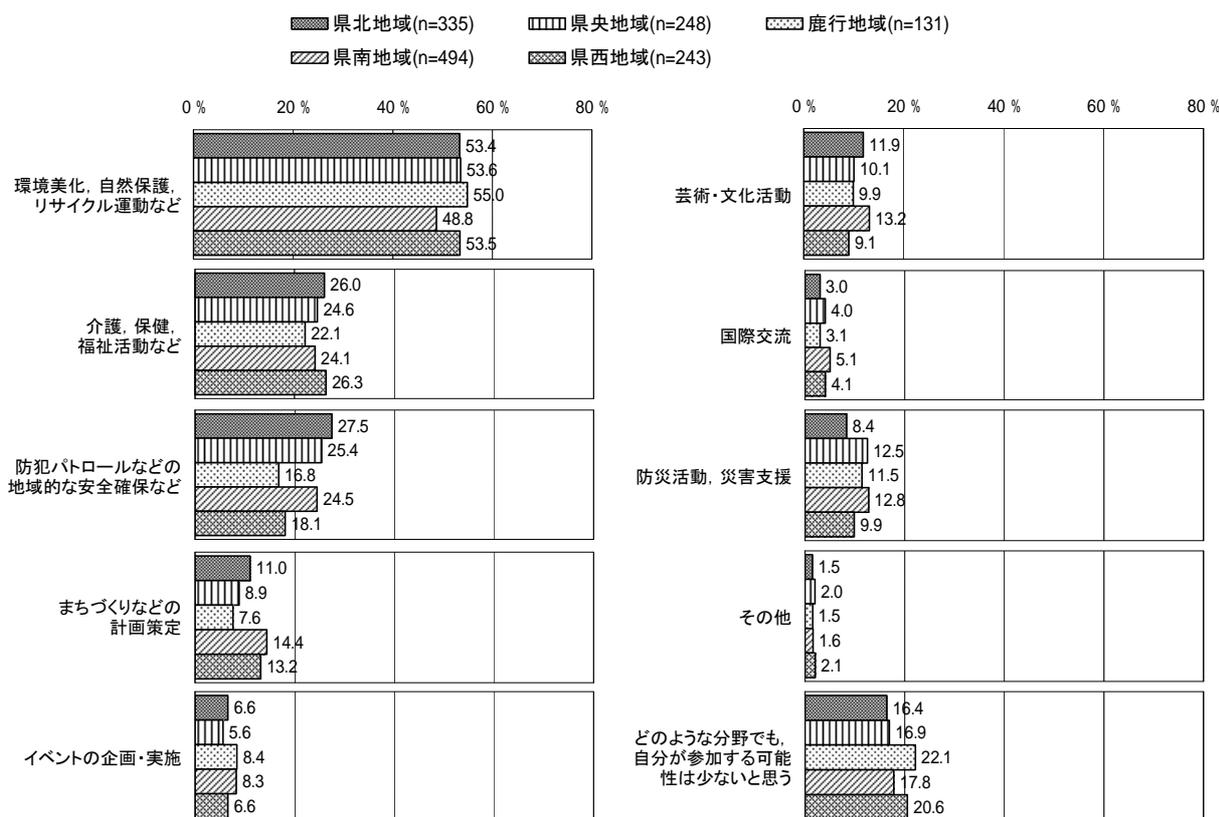
(地域別)

●全ての地域で「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」が最も多く挙げられたが, ほとんどの地域ではその割合が概ね 54%前後であることに比べて, 県南地域では 48.8%で少ない。同分野に次いで, 県北・県央・県南地域では「防犯パトロールなどの地域的な安全確保など」が挙げられ, 鹿行・県西地域では「介護, 保健, 福祉活動など」が挙げられた。また, 「どのような分野でも, 自分が参加する可能性は少ないと思う」は, 県北・県央・県南地域では 17%前後であるが, 鹿行・県西地域では 20%を超えており, 他地域に比べてやや多い。

〈地域代表者等調査との比較〉

・県北・県央・鹿行・県南地域では「まちづくりなどの計画策定」が最も多く挙げられたが(県北・鹿行地域は「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」と同率1位), 県西地域では「環境美化, 自然保護, リサイクル運動など」が最も多く挙げられた。

どのような分野の活動であれば参加する可能性があるか(地域別)

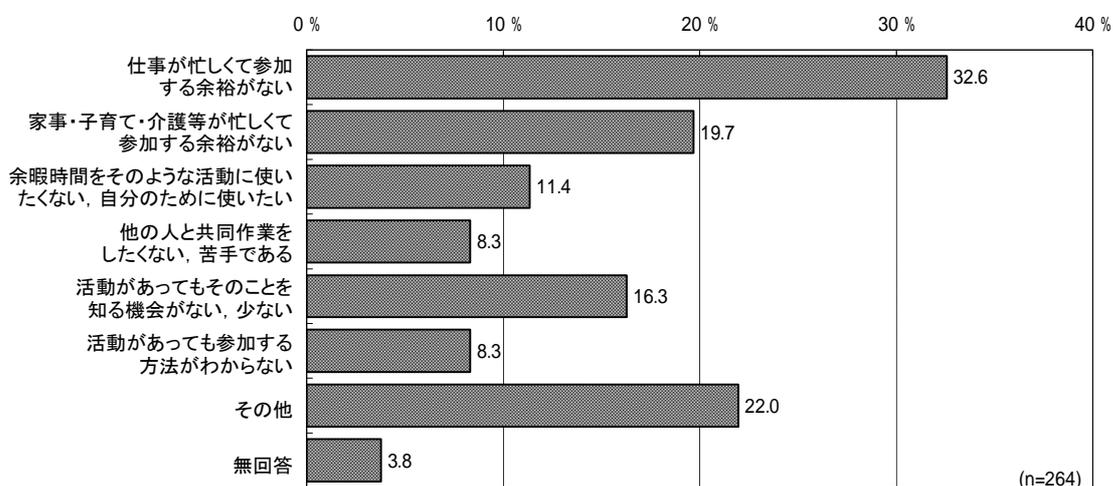


(3)分野にかかわらず参加する可能性が少ない理由（複数回答可）

（全体集計）

●前問で「どのような分野でも、自分が参加する可能性は少ないと思う」を選択した回答者に理由を聞いたところ、回答はやや分散したが、なかでは「仕事が忙しくて参加する余裕がない」が32.6%と回答者のほぼ1/3から挙げられて最も多かった。次いで「その他」が22.0%を占めたが、これら以外では「家事・子育て・介護等が忙しくて参加する余裕がない」（19.7%）、「活動があってもそのことを知る機会がない・少ない」（16.3%）、「余暇時間をそのような活動に使いたくない。自分のために使いたい」（11.4%）、「他の人と共同作業をしたくない、苦手である」（8.3%）、「活動があっても参加する方法がわからない」（8.3%）などが挙げられた。

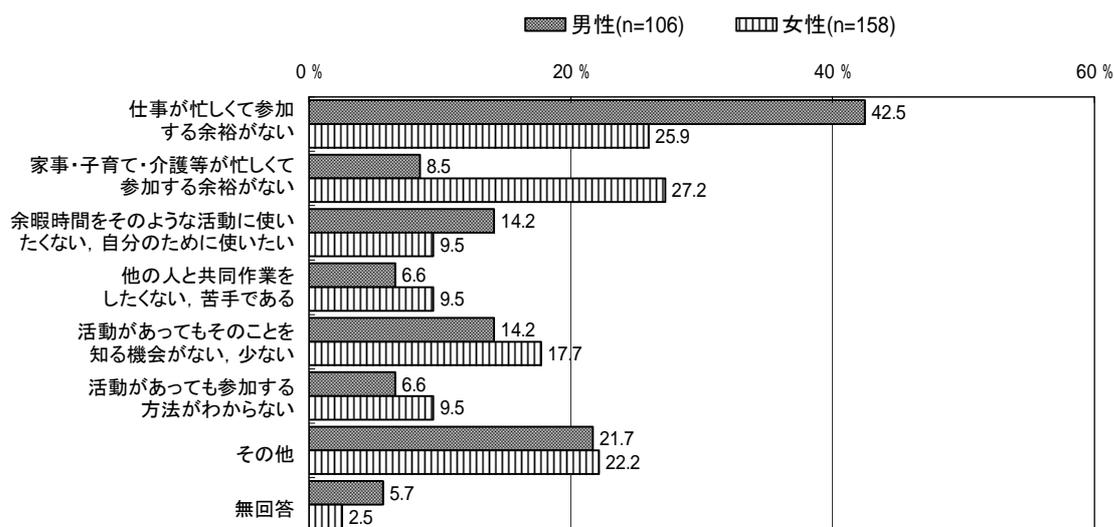
分野にかかわらず参加する可能性が少ない理由



(性別)

- 男性は「仕事が忙しくて参加する余裕がない」(42.5%)への集中度合が女性に比べて高い。女性は男性に比べて理由が分散しており、「家事・子育て・介護等が忙しくて参加する余裕がない」(27.2%)、「仕事が忙しくて参加する余裕がない」(25.9%)、「その他」(22.2%)がいずれも2~3割を占めた。

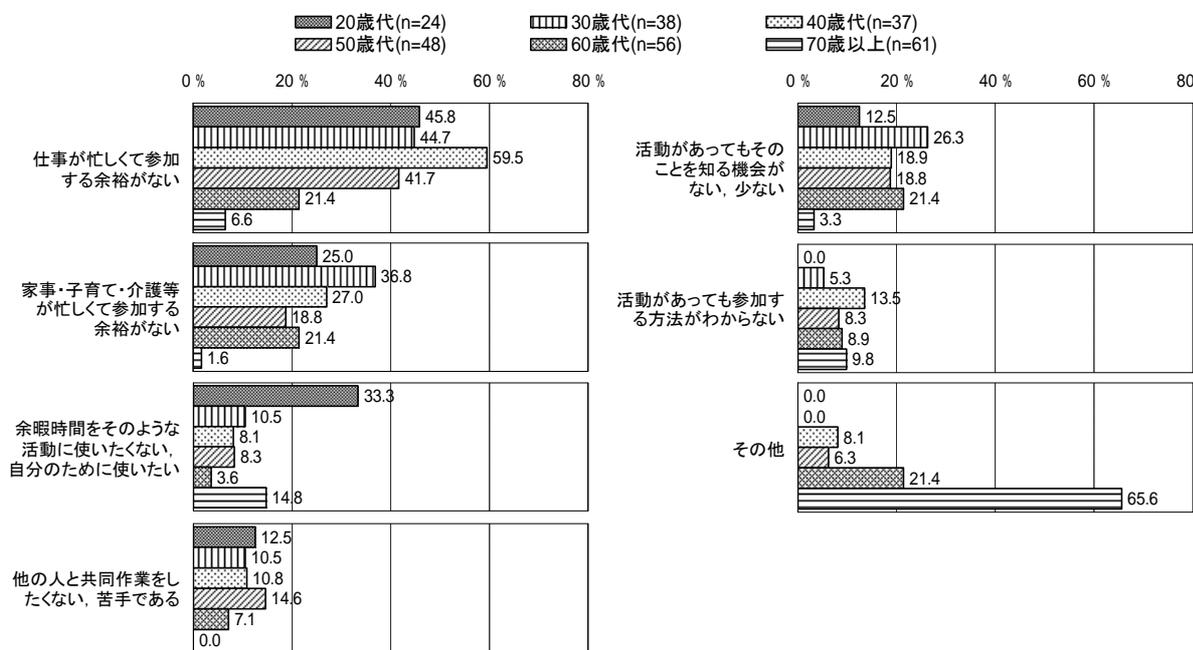
分野にかかわらず参加する可能性が少ない理由(性別)



(年代別)

20～50 歳代では「仕事が忙しくて参加する余裕がない」が 40%以上を占めて最も多く、とくに 40 歳代ではその割合は 60%近くにまで増える。それらの年代で、次いで多く挙げられた理由は、20 歳代では「余暇時間をそのような活動に使いたくない。自分のために使いたい」(33.3%)であるが、30～50 歳代では「家事・子育て・介護等が忙しくて参加する余裕がない」であった。一方、60 歳代では理由はかなり分散するようになり、また、70 歳以上では「その他」が 65.6%を占めた。全体集計において 2 割強を占めた「その他」はほとんどが 60 歳代と 70 歳以上の回答者によって挙げられている。

分野にかかわらず参加する可能性が少ない理由 (年代別)



(地域別)

- ほとんどの地域で「仕事が忙しくて参加する余裕がない」が30%前後を占めて最も多く挙げられ、とくに県南地域ではその割合は42.0%と多い。県北地域では「家事・子育て・介護等が忙しくて参加する余裕がない」が25.5%を占めて最も多く挙げられた。

分野にかかわらず参加する可能性が少ない理由（地域別）

